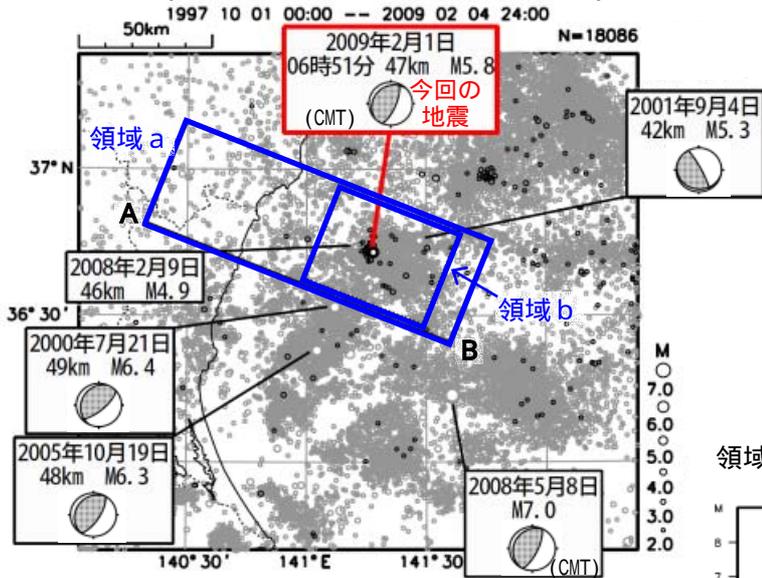
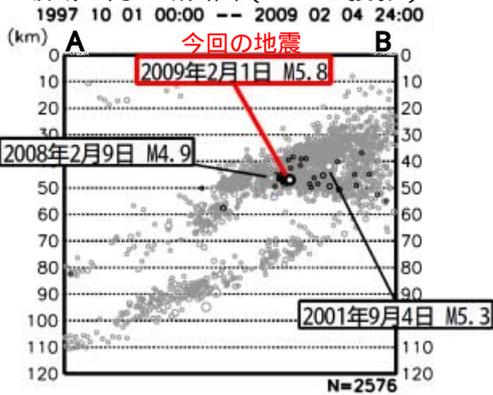


2月1日 茨城県沖の地震

震央分布図（1997年10月以降、M 2.0、深さ120km以浅）
（2009年1月以降の地震を濃く表示）



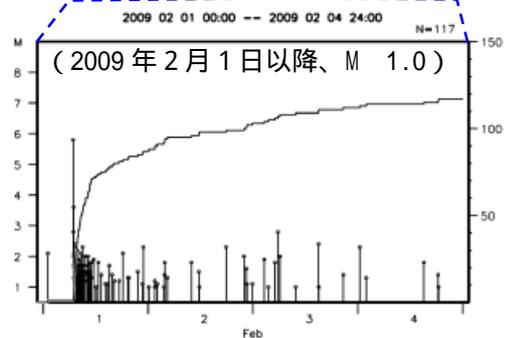
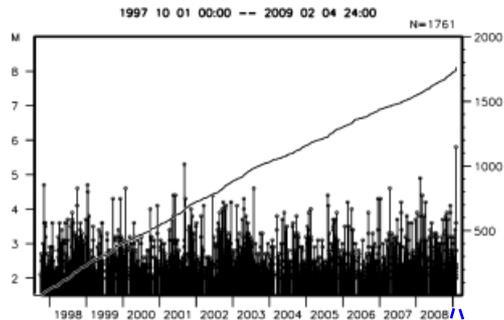
領域 a 内の断面図 (A - B 投影)



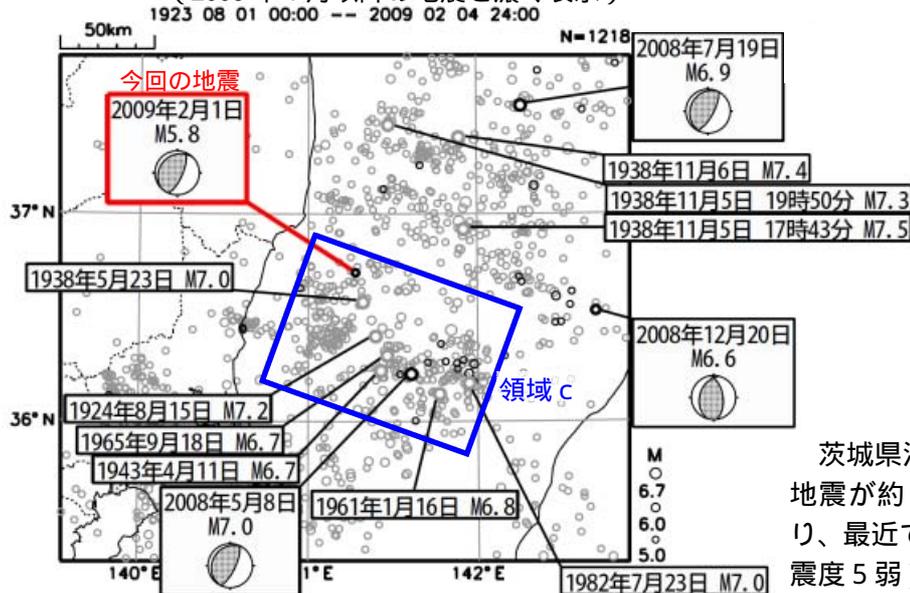
2009年2月1日06時51分に茨城県沖の深さ47kmでM5.8(最大震度4)の地震が発生した。発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震活動は、地震発生後4時間程度までは活発であったが、次第に収まりつつある。

今回の地震の震源付近は、2001年9月4日にはM5.3(最大震度3)、2008年2月9日にはM4.9(最大震度3)の地震が発生するなど地震活動が活発な領域である。

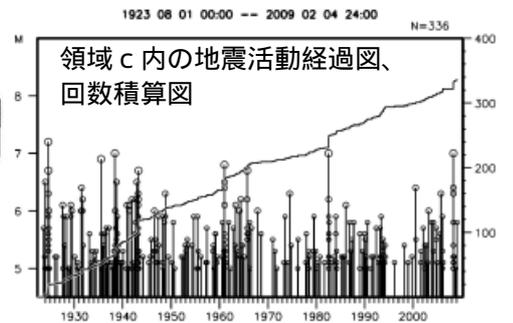
領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図



震央分布図（1923年8月以降、深さ120km以浅、M 5.0）
（2008年1月以降の地震を濃く表示）



(表示している発震機構解は全て CMT 解)



茨城県沖(領域 c)では、M6.7を超える地震が約20年に1回の割合で発生しており、最近では2008年5月8日にM7.0(最大震度5弱)の地震が発生している。また、今回の地震の南約15kmの位置では、1938年5月23日にM7.0(最大震度5)の地震が発生している。